

## 第 101 回 理事会・拡大執行委員会 議事録

日時：2022 年 3 月 20 日（金曜日）14 時～18 時

開催方法：Web 会議システム（Zoom）利用

【出席者（Web） 31 名】※敬称略

[理事]

柚崎 通介（会長）、岡部 繁男（副会長）、加藤 忠史（副会長）、磯村 宜和（庶務理事）、大塚 稔久（副庶務理事／大会委員会委員長）、宮川 剛（副庶務理事／将来計画委員会委員長）、上口 裕之（機関誌理事／NSR 委員会委員長）、山中 宏二（会計理事）、岩坪 威（理事）、大木 研一（理事）、大隅 典子（理事）、木山 博資（理事）、小林 和人（理事／第 46 回大会長）、銅谷 賢治（理事／第 45 回大会長）、林（高木）朗子（理事）、尾藤 晴彦（理事／第 44 回大会長／将来計画委員会 日中韓 WG 委員長）、藤山 文乃（理事）、渡辺 雅彦（理事）

[委員会委員長]

奥村 哲（ブレインビー委員会委員長）、尾崎 紀夫（臨床・関連学会連携委員会委員長）、掛川 涉（ホームページ委員会委員長）、合田 裕紀子（国際連携委員会委員長）、竹村 文（動物実験委員会委員長）、花川 隆（倫理委員会委員長）、平井 宏和（将来計画委員会 学会体制 WG 委員長）、古屋敷 智之（神経科学ニュース編集委員会委員長）、Thomas J. McHugh（将来計画委員会 機関誌 WG 委員長）、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長／利益相反委員会委員長）、松元 健二（アウトリーチ委員会委員長／産学連携推進委員会委員長）、吉本 潤一郎（情報基盤整備委員会委員長）、渡部 文子（ダイバーシティ対応委員会委員長／奨励賞選考委員会委員長）

【欠席者 7 名】※敬称略

山中 章弘（広報理事）、岡野 栄之（理事）、笠井 清登（理事）、定藤 規弘（理事）、林 康紀（理事／脳科学辞典編集委員会委員長）、奥山 輝大（理事）、宮田 麻理子（生物科学連合担当委員会委員長）

## 【報告事項】

- 1) 磯村宜和庶務理事から会員構成や入退会者数、協賛後援名義に関する報告があった（資料 A）。会員数は減少傾向に歯止めがかかり、数年前の水準に戻ったことなどが報告された。
- 2) 尾藤大会長より、第 44 回（2021 年）大会の決算報告が行われた。
- 3) 銅谷大会長より、第 45 回（2022 年）大会、Neuro2022 の準備報告が行われた。各種シンポジウムや国内／海外 Travel Award 採択者の確定に続いて、一般演題登録がコロナ前に近い約 1,400 件の応募をもって終了したこと、複数の助成金採択、および企業協賛については開催方式最終決定後まで締切を延長中である旨などが報告された。今後は開催方式を最終決定し（理事会後、ハイブリッド形式での開催が決定）、助成金、企業協賛のさらなる獲得に向けて活動を続けるほか、LBA の募集を行う旨も報告された。
- 4) 第 46 回（2023 年）大会の準備状況について、小林大会長より報告があった。執行委員会を既に数回オンライン開催し、大会テーマ、プレナリーレクチャーの講演者のうち 3 名、実行委員、プログラムコア委員、プログラム委員候補者（依頼準備中）、特別講演の講演候補者（依頼中）等が既に決定しているほか、企画シンポジウムの内容や、公募シンポジウムの募集／案内方法、ポスター発表の形式、懇親会開催方法等について検討中である旨が述べられた。
- 5) 第 47 回（2024 年）大会の準備状況について、岡部大会長より報告があった。2024 年 7 月 24 日（水）～7 月 27 日（土）の会期にて、第 67 回日本神経化学会（大会長 小泉 修一（山梨大学））、第 46 回日本生物学的精神医学会年会（大会長 山末 英典（浜松医科大学））との合同大会として開催予定である旨に加え、会場が福岡コンベンションセンター（福岡国際会議場、マリンメッセ福岡 B 館）に決定したこと、大会組織のうち実行委員長（大塚 稔久（山梨大学））とプログラム委員長（合田 裕紀子（理化学研究所））が決定済みであること等が述べられた。
- 6) Neuroscience Research 上口裕之編集主幹より、2021 年の査読審査実績および特集号発行実績と、新設された NSR 論文賞の選考等について説明があった。今後も年間 600 報以上の投稿が見込まれ、採択率は現状を維持すること、年間 3 号の特集号の発行を予定していることが報告された（「NSR 委員会 報告事項」参照）。
- 7) 奨励賞選考委員会の渡部文子選考委員長より、選考結果の報告があった。24 名の候補者（うち女性 7 名、外国人 1 名）の中から、選考方針について慎重に確認のうえ、受賞候補者 5 名（うち女性 1 名）が選出されたことが述べられた。また、今回は初のペーパーレス審査となった旨や、次期選考委員長（藤山文乃（北海道大学））の予定等についても説明があった（「奨励賞選考委員会 報告事項」参照）。
- 8) 磯村庶務理事より、ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞に関する報告があった。締め切りを 10 日ほど延長した結果、27 名（うち国内：4 名、国外：23 名）から応募があり、選考の結果、Dr. Denis Jabaudon（Department of Basic Neuroscience, University of Geneva, Switzerland）が受賞者に決定した旨などが述べられた（「アルトマン賞選考委員会 報告事項」参照）。

- 9) 法人化実行委員会の磯村宜和委員長より、一般社団法人への移行に関する準備状況について報告があった（「法人化実行委員会 報告事項」参照）。

#### 【審議事項】

- 1) 法人化実行委員会の磯村宜和委員長より、一般社団法人設立の実施案および第2回会員アンケートの集計結果が示された。学術ドメイン制度、評議員制度および理事会（理事・理事長・他）制度、将来の公益社団法人への移行を見据えた一般社団法人の設立を含む具体案やスケジュールについて説明があり、いずれも承認された。
- 2) 山中宏二会計理事より、学会本体会計2021年決算案とNSR会計2021年暫定決算案が示され、承認された（資料B, C）。また、学会本体会計2022年予算案ならびにNSR会計2022年予算案についても承認された（資料D）。
- 3) 柚崎会長より、第48回（2025年）大会の会場候補が示された。東京国際フォーラム、幕張メッセ、札幌コンベンションセンター、朱鷺メッセ、Gメッセ群馬の5会場について検討の結果、札幌コンベンションセンターおよびGメッセ群馬が候補として残された。
- 4) Neuroscience Research 運営委員会の柚崎通介委員長より、Tom McHugh氏を次期編集主幹に選出することについて提案があり、承認された。
- 5) 柚崎通介会長より、SNSを用いたアウトリーチ活動について提案があった。事務局からの発信（大会メルマガの要約等）、若手の会員による「ニューロナビゲータ」の運用案等について説明があり、いずれも承認された。
- 6) 大会委員会の大塚稔久委員長から、①シニア会員と名誉会員の大会参加と演題登録、②大会の演題抄録の公開設定範囲、について変更の提案があり、①については保留、②については承認された（「大会委員会 報告（審議）事項」参照）。
- 7) 倫理委員会の花川隆委員長より、「ヒト脳機能の非侵襲的研究」の倫理問題等に関する指針の改定に関する提案があり、承認された（「倫理委員会 審議事項」参照）。

#### 【各委員会・WGの活動報告】

（各委員会を参照）

#### NSR委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- NSR Best Paper Award と NSR Excellent Paper Award の選考を行い、受賞論文を決定した。
- 上記論文賞受賞論文を本学会会員へのメール配信および学会ホームページへの掲載で発表した。また、神経科学ニュース 5 月号への掲載を予定している。
- Scientific Managing Editor (SME) 制度を導入した：NSR で不採択となった論文を社内専門家である SME が検討し、同社の他誌への投稿を勧める制度の導入についてエルゼビアより提案があり、編集委員や編集スタッフの業務負担の増加がないことを確認した上で、稼働中の編集委員の承諾を得て、導入を決定した。同制度を導入した他誌から NSR に回ってくる可能性もある。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 経常的な編集関連業務とプロモーション活動を継続する。
- 2023 年 1 月の NSR Best Paper Award と NSR Excellent Paper Award の選考に向けて、委員各自が候補論文を随時リストアップする。

## 法人化実行委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 2021 年 9 月、一般社団法人の設立を目指す法人化実行委員会が発足し、法人化ロードマップを作成した。
- 同 11 月、新パネル制度と評議員制度に関する会員アンケートを実施した (回答 1,382 件)。
- 2022 年 1 月、法人化実施案に関する会員アンケートを実施した (回答 933 件)。
- 執行委員会、会員アンケート、司法書士等の意見を採り入れて法人化実施案を修正し完成させた (本理事会において審議の予定)。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 司法書士、公認会計士等の指導下で一般社団法人の定款案を作成する。
- 今夏の総会において一般社団法人化および定款の承認を目指す。
- 今秋頃、正会員等による評議員、理事、会長 (理事長) の選挙を実現させる道筋をつける。
- 2023 年 4 月の一般社団法人設立を目指している。

## 指名委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 島津奨励賞の学会推薦枠の選考を行った。
  - ・ 村山 正宜 (理研 CBS) が選出された。
- 東レ科学技術研究助成の学会推薦枠の選考を行った。
  - ・ 乗本 裕明 (北大)・米原 圭祐 (遺伝研) 両名とも選出された。
- 山田科学振興財団 研究援助の学会推薦枠 3 件の選考を行った。
- 時実利彦記念賞選考委員候補 (半数改選) を選考し理事会に報告した。
- 生理学研究所の運営委員の学会推薦枠の選考を行った。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 引き続きダイバーシティに考慮しながら、適切な人の選考を公正に行う。

(将来的な検討課題)

- 各種の外部表彰への学会推薦については、これまでは学会推薦を依頼されてきた方について受動的に選考を行ってきた。しかし今後、神経科学分野を発展させていくためには、学会から候補となりうる先生方に積極的に声をかけることも必要かもしれないとの声もあり検討中である。

## 将来計画委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

### 1. DORA の署名

DORA Declaration on Research Assessment (DORA ; 「研究評価に関するサンフランシスコ宣言」 ; <https://sfdora.org/read/> ) についての生科連からの提案を受け、機関誌 WG や将来計画委員会で議論を行い学会として署名することを理事会に提案。理事会での議論を経て、2021 年 12 月 15 日に学会が正式に賛同し署名を行った (詳細は、別添 1 の DORA の署名のお知らせを参照)。

## 2. 公開大討論会について

これまでランチョン討論会（今年はネット開催でランチョンの支給はないため、「公開大討論会」とする）では、隔年で交互にサイエンティフィックなトピックと、研究環境などについてのトピックを討論の対象としてきた。2020年度は、アウトリーチ委員会と連携しサイエンティフィックな内容であったため、2021年度は一般的なトピックの年として、産学連携委員会との合同で、公開大討論会「これからのキャリアパスのあるべき姿とは？」と題し、以下のようなパネリストで、2022年2月19日（土）14:00より行った（別添2ポスター参照）。

井関 祥子（東京医科歯科大学 教授／生物科学連合・副代表）、江端 新吾（東京工業大学 戦略的経営オフィス 教授／総括理事・副学長特別補佐／内閣府・政策統括官付）、斉藤 卓也（文部科学省 人材政策課長）、近添 淳一（(株)アラヤ 脳事業研究開発室 チームリーダー）、手塚 茜（文部科学省ガッツ若手ワーキンググループ AirBridge）、深澤 知憲（(株)エマージングテクノロジーズ 代表取締役社長 / 日本版 AAAS 設立準備委員会・キャリアパス検討ユニット・リーダー）、藤井 直敬（(株)ハコスコ 代表取締役 CEO）、森 章（横浜国立大学 教授／日本学術会議 連携会員（生態科学分科会・副委員長）／同若手アカデミー委員（学術の未来を担う人材育成分科会・幹事））

司会 松田 哲也（玉川大学 教授）

[https://www.jnss.org/general-events?id=paneldiscussion-](https://www.jnss.org/general-events?id=paneldiscussion-2022&u=002421897091d94201fcbcb082903574)

[2022&u=002421897091d94201fcbcb082903574](https://www.jnss.org/general-events?id=paneldiscussion-2022&u=002421897091d94201fcbcb082903574)

- ・事前にアンケートを行い、学会内外から、101件の自由記述回答を含む280件程度の回答を得た。この回答の結果を複数のパネリストの発表に活用いただいた。今後、天野さんのご協力をいただき、結果をまとめJNSウェブサイトにて公開予定。
- ・Zoom ウェビナー配信、YouTube 配信を行い、双方あわせて、常時150名程度の参加者が視聴した。今後、ビデオについて必要な部分を編集し、公開することを検討。
- ・LiveQ というツールを用い視聴者から質問を受付けた。パネリストや企画関係者が Zoom のチャット欄も活用して回答を行うことにより、質問の多くにコメントを行うことができ、双方向性のコミュニケーションが行われた。
- ・Zoom ブレイクアウトルームを用いた懇親会も行った。
- ・本討論会の議論を受けて、1) 学会 HP にも産業界、特に研究に関係した業界への紹介があってもよいのではないか、2) 求職者の売り込みページを設けるといったアイデアがかつてあったがそれはどうか、3) 今まで学会 HP では、大学や研究所等での公募情報をメインで紹介しており企業の研究職に関する求人情報は掲載していないが学会の品位を落とさない範囲内で何らかの基準で選別し掲載してもよいのではないか、などの意見が出された。本件に

については、将来計画委員会、産学連携委員会でそれぞれ議論し意見をまとめることになった。

### 3. 機関誌の今後について

詳細は機関誌 WG の報告をご参照いただきたいが、以下にポイントをまとめた。

- ・今期の 10 年契約が満了（2023 年 12 月）の後に 50%の ownership を自動的に獲得できると JNS 側は認識していたが、エルゼビアによると 50%の ownership を JNS 側が獲得する交渉ができるだけ、とのこと。50%の ownership を獲得するには、かなりの額の資金（数千万円）が必要とされる見込み。
- ・上の事例に象徴されるようにエルゼビアとの契約交渉は難解。学会のジャーナル運営支援や、学会と出版社の契約交渉支援などを行っている kwf consulting 社 <https://www.kwfc.com/consulting/> に、JNS の代理人としてエルゼビアとの交渉をサポートしていただくことになった（kwf consulting 社は、他の複数の国際学会の機関誌で、エルゼビアその他の大手出版社との契約交渉の実績があり、評判もよい）。
- ・シュプリングー・ネイチャー社とワイリー社に、新規オープンアクセス誌を立ち上げる場合のプロポーザルを作成していただくことを依頼した。前者は、1) PubMed 掲載の基準が極めて厳しくなり、創刊後少なくとも数年は PubMed への掲載が実現しないこと、2) Clarivate 社のインパクトファクター取得も同様に厳しくなっていること、3) PubMed 掲載やインパクトファクターがない場合、投稿が集まりにくいこと、という理由でプロポーザルは見合わせということになった。ワイリー社もほぼ同様の見解を示しているが、プロポーザルは作成していただけるとのこと。他社からのプロポーザルをいただくことは、エルゼビアとの交渉の上でも重要。
- ・参考：学術雑誌の購読モデルからオープンアクセス出版モデルへの転換が世界的に目指される中で、大手出版社と大学（コンソーシアム）の「転換契約」が日本でも進みつつある（大隅理事によるこちらの記事を参照； <https://current.ndl.go.jp/e2381>）。転換契約により、参加機関の所属研究者は、APC 割引を受けることが可能となり、オープンアクセスの流れは今後、進むことが予想される。NSR による純利益は現在、年間 4000～5000 万円程度と推測されるが、これは今後、減少していく可能性が高い。

### 4. 委員会の開催

Zoom での委員会を開催（2022 年 3 月 11 日（金）、16 日（水）；報告書提出後なので議事録なし）。議題は以下のとおり。

- ・ 沖縄の大会でのランチョン討論会について（今年は神経科学の研究関連のトピックの年に該当）
- ・ ポスト革新脳/国際脳のトピックについて（ライフ課が検討を開始することのこと；JNSから何らかの提案を出したい；柚崎会長より将来計画委員会でできるだけ幅広い議論をしてほしいとのこと）。
- ・ Neuroscience Res の契約更新について（現状報告と今後の方針について）。
- ・ 神経科学での再現性向上のために学会としてできそうなことはないか、について。
- ・ 学会 HP での若手のキャリアパス支援（企業からの求人募集の掲載、求職者の売り込みページなど）について

## 5. 予算申請

ランチョン大討論会 (@NEURO2022)の開催費用など（100万円）。

（今後、約6ヶ月の活動目標・計画）

今年度も継続して以下の活動を行う。

- ・ ランチョン大討論会を準備・実施する。
- ・ 機関誌の今後について、契約更改を中心に検討を継続する。
- ・ 大型研究費のあり方について検討を進める。
- ・ 各種の分野横断的イシューについての検討を進める。

## 将来計画委員会 機関誌 WG 報告事項

（前回の理事会以降の活動報告）

The working group held a meeting (via Zoom) on March 4, 2022; below a brief summary of the issues discussed and the WG's suggestions to the JNS Board of Directors are summarized:

- The WG discussed the Elsevier contract renewal situation. Key points are that Elsevier has reviewed the previous contract and their legal staff interprets the “right to acquire” clause only gives JNS a right to purchase a 50% stake in the journal. The price is undetermined but would be based on their valuation of current value and future earnings, she said that would be in the “six

figure” range in Euros.

- They are willing to discuss modification of current royalty sharing arrangement (6%)
- Due to the rapid change in the publishing industry we should also discuss the future of NSR; stick with a hybrid model, flip to open access, adding a second OA spinoff. Elsevier is flipping ~10 journals/year, OA is a less stable business model and in the years following a flip a journal typically experiences a large drop in revenue- timing is important, risk can be considerable
- Added that Elsevier is currently negotiating many deals (such as the JUSTICE deal in Japan) and sees OA with government sponsorship as a possible future in the industry
- All agreed the decision to hire a consultant with expertise in publishing will be very helpful
- Starting a new journal is extremely difficult in the current times, PubMed and Clarivate are reluctant to list any new journals
- Consider option of new pan-Neuro journal being discussed by the Union of Brain Societies, this could be achieved by consolidating and renaming an existing journal.
- The WG discussed suggestions on increasing editorial board diversity and decreasing workload for the volunteer editors. Would like to increase gender diversity, one avenue would be to recruit editors from outside Japan that would actually handle papers.
- WG discussed the TOP Factor, a score journals receive for their commitment to open science. Currently NSR has a score of 1, which is poor. Simply rewriting the submission policies could drastically improve this score. A second suggestion is to require the submission of raw numerical data at initial submission, this may help prevent submission of clearly bad papers that would immediately be rejected. Also may suggestion, but not require, the deposition of raw data in an appropriate accessible repository.

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- The status of contract negotiations
- Updating submission guidelines
- Recruiting/expanding editorial staff
- Marketing NSR in Japan and abroad; stress speed of review and broad audience

特になし

## 将来計画委員会 学会体制 WG 委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 9/14 学会法人化に向けて、オンラインで庶務理事と打ち合わせを行った。
- 学会法人化を実現するために、庶務理事を委員長とする法人化実行委員会が設置され、本 WG から平井、石川、吉本が参加することになった。
- 2021.10 月以降、学会体制 WG の法人化に関する活動は一時休止し、法人化実行委員会として活動した。
- 学会年会費の支払い方法について検討し、2022 年 3 月 17 日に「年会費の支払い方法についてのアンケート」を会員に向けて一斉配信した（アンケート期間 3/17～3/31）。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 法人化実行委員会の活動に協力し、法人化を進める（定款、細則の制定に協力する。）
- 「年会費の支払い方法についてのアンケート」の結果を分析し、支払い方法の集約について検討を進める。

## 大会委員会報告（審議）事項

(審議事項名)

- 「①シニア会員と名誉会員の大会参加と演題登録について」
- 「②大会の演題抄録の公開設定範囲について」
- 「③未発表データの取り扱いに関する指針について」

(背景・経緯)

- ① 退職前と同じくらいアクティブに研究しているシニア会員も増えてきている（今後も増えることが考えられる）ので、演題発表時の参加登録費は払ってもらっても良いと考えられる。
- ② 現在、2012-2019 は誰でも見られる（2012-2019 は google 検索に引っかからないように松本シ

システムによりガードが掛かっている)が、2020 は会員共通のパスワードがかかっている。2021 は参加登録した人 (confit に登録している人) だけが見られる状態。

- ③ 後ハイブリッド型の大会が続く可能性もあり、オンライン発表時のデータ取り扱いについて指針が必要ではないか

(審議を要する項目)

「①シニア会員と名誉会員の大会参加と演題登録について」

「②大会の演題抄録の公開設定範囲について」

(具体的内容 (目的・方法・効果・課題など))

①

これまでの取り決め

正会員	シニア会員	名誉会員	
年会費	10,000円	5,000円	0円
参加登録費	有料	無料	無料
懇親会費	有料	無料	無料
演題筆頭発表	可	可	不可※

※ただし参加登録費を支払えば発表可

新しい案

	(比較用) 正会員	シニア会員	名誉会員
年会費	10,000 円	5,000 円	0 円
参加登録費	有料	無料※	無料※
懇親会費	有料	有料	無料
演題筆頭発表	可	可※	可※

※ただし筆頭著者として演題発表をする場合には参加費を払う。

②

- 本学会でも、参加登録していない人にもある程度の情報を提供したほうがよいと思われるが、Confit では、「抄録は見られるが、動画は見られない」という設定ができない。
- そのため、Neuro2022 および以降の大会では (Confit がこのままだと仮定した場合)、Confit とは別に、「タイトル+発表者」だけを誰でも見られるような何かを作成するのが良いのでは

ないか。

- その場合、発表者への周知期間を設けて、どのような意見が出るかを見極めてから進める必要があると思われる。

#### (理事会での質疑応答)

- ① まず、シニア会員の定義を変更する必要があるのでは。定年を迎えた方も研究を継続される方も多く、そういった方々は正会員として残っていただければいいのでは。細則と HP での記述が違っているので、細則を HP の記載に合わせる必要がある。

ただし、今、細則を変えても法人化が控えているので、二度手間になる。

→法人化に合わせて、細則（案）を大会委員会で作成、理事会の議論・承認を図る

- ② 「タイトル＋発表者」だけを誰でも見られるようにすることで、了承いただいた。現在、プログラムの選定をおこなっており、研究者に通知する際に、「タイトル＋発表者」を事前に公表する旨を伝えることとした（銅谷先生）

#### (結論)

- ① 承認保留。法人化に合わせて、細則を作成する。
- ② 承認

### 国際連携委員会報告事項

#### (前回の理事会以降の活動報告)

##### 【1】 FENS との科学交流促進事業について

- 2021 年度 Cajal Training Program（2 名選出）の開催状況について
  - ・ “Optogenetics, chemogenetics and biosensors” (Joshua Olorcismo、NAIST) はオンラインで実施 (Nov 22 – Dec 10, 2021) ; “Bioenergetics for Brain Function” (Chijung Hung、名古屋大学) は 2022 年へ延期 (Feb 28 – March 13, 2022)
- 2022 年度 FENS トラベルアワードへ 4 名を選出 (Web「受賞者一覧」参照)、2020 年度に選出されて繰越した合格者 3 名と合わせて 7 名が 7 月に開催される FENS Forum へ参加予定

##### 【2】 カナダとの二国間シンポジウムについて

- 3年に一度、CANバンクーバー大会開催年に相互の年次大会で日加シンポジウムを行う合意が交わされており、該当年であった2021年は公募を行い以下のとおり開催された。
  - JNS神戸大会
    - Organizers：坂本雅行（京都大学）、Robert Campbell（Alberta大学）
    - Speakers：Organizers + 渡部文子（東京慈恵会医科大学）、Paul De Koninck（Laval大学）
  - CANバンクーバー大会
    - Organizer：Masami Tatsuno（Lethbridge大学）
    - Speakers：Organizer + 坂内博子（早稲田大学）、Claudia Gomes da Rocha（Calgary大学）、深井朋樹（OIST）
- 次回の日加シンポジウムは2024年に開催

### 【3】 SfN へのトラベルアワード及び交流について

- SfN2021 トラベルアワードへ6名を選出（Web「受賞者一覧」参照）、バーチャル大会へ参加
- SfN2021 バーチャル大会にてソーシャルを開催（国際連携委員・五十嵐主催）

### 【4】 中国神経科学学会との交流事項について

- 2021年中国神経科学学会年次大会トラベルアワードへ3名を選出：Yao Zhiwei（同志社大学）、中川直（鹿児島大学）、院田雅裕（慶應義塾大学）。ただし、コロナ状況悪化のため全員、大会参加を次回へ繰り越し。
- コロナ禍で途絶えた交流を挽回し積極的な協力を図るために、2022年沖縄大会へのCNSトラベルアワードは今大会に限って通常の6枠から3名増員の9名をサポート。
- CNS大会が2021年より年次大会形式へ変更されたことを受けて、日中合同シンポジウムは偶数年にCNS側、奇数年にJNS側で行うことで合意を得た。したがって2022年はCNS大会、2023年はJNS大会での開催。

### 【5】 トラベルアワード運用におけるcost/benefitの評価について

- 2011年から継続しているSfNトラベルアワードの歴代受賞者リストをもとに、アワードの意義について意見交換を行った。一定の退会率はあるものの、良い業績を出しつつ着実にキャリアアップしている研究者も一定数みられる。トラベルアワード受賞者として相応しい若手研究者の選考に至っていると考えられる。今後もデータを整理して解析を進めていく。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 引き続き各種トラベルアワードの選考も含めて国際連携の促進を図る
- The Brain Prize (ルンドベック財団) 事務局との連携について
  - ・ 沖縄大会の Brain Prize Lecturer は Sir Adrian Bird
  - ・ MoA (2021-2023) 継続について、2022 年沖縄大会へルンドベック財団事務局が来日した際に相手方の意向を確認。

### 情報基盤整備委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 会員・入金管理システム「スマートコア」の利用契約更新 (契約期間 2022/3/1-2023/2/28)
- 「スマートコア」選挙機能の改修 (法人化後の選挙制度に対応するため)
- ホームページ改修に向けた準備 (下記 2 点を企画中)
  - ・ 神経科学ニュースのハイブリッド化 (HTML と PDF の 2 フォーマットを掲載)
  - ・ ホームページ委員会の新企画コーナー作成 (研究室マップ・追悼コーナー)
- 日本神経科学研究室マップ作成に向けて、ホームページ委員会と SE 松本様との交渉の仲介

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- SE 松本様との業務委託契約更新の交渉 (更新後の契約期間は 2022/5/1-2023/4/30。3 月末までの合意を目指す。)
- 4 月：情報基盤整備委員会 (オンライン開催予定)
- BrainDevelopmentMaps.org (Altman & Bayer 氏のデータベース) の引継ぎについて交渉を進める

(特記事項)

- 理事会・拡大執行委員会では上記について報告し、質疑については特に出なかった。
- 大会委員会から大会演題リストの公開についての議論があった。「タイトル+発表者」のみの公開の方針で議論が進んでおり、それが結審後、本委員会でもその実装に協力する。

### 神経科学ニュース編集委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 2021年3号(7月号)の原稿を予定通り収集・校了し、7月10日に発行した(別添1)。
- 2021年4号(11月号)の原稿を予定通り収集・校了し、11月9日に発行した(別添2)。
- 2022年1号(2月号)の原稿を予定通り収集・校了し、2月10日に発行した(別添3)。脳科学辞典の新項目紹介を開始した。
- 2022年2号(5月号)を企画し、執筆者に原稿を依頼し、5月10日に発行予定である(別添4)。
- 2021年3号・4号に冊子体の廃止の予告を掲載した(別添5)。2022年1号から冊子体を廃止した。
- 冊子体の廃止に伴う広告の代替案としてニュースの目次のメール配信に掲載するバナー広告を始めることとし、バナー広告のレイアウトを決定した(別添6、別添7)。
- ニュース冊子体に広告を掲載していた4社にバナー広告への移行のお願いとご案内をお送りした。全社と契約が完了し、2022年1号の目次のメール配信にバナー広告が掲載された。
- 神経科学ニュースの執筆者の範囲を議論し、原稿執筆依頼に係る内規を作成した(別添8)。
- 冊子体の廃止後はPDF版だけでは読みにくいとの意見があるため、PDF版・HTML版の同時発行に向けて情報収集を始めた。
- 2022年1月6日にニュース編集委員会(オンライン)を開催し、これまでの活動を確認し、今後の計画を議論した(別添9)。

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- 最大ページ数に配慮して、各委員が担当号の原稿を収集し、校正を全委員で分担して行う。
- PDF版・HTML版の同時発行に向けて準備を進める。

ホームページ委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 追悼コーナー開設(小幡邦彦先生・伊藤正男先生等、追悼記事掲載準備)
- 日本神経科学研究リスト・マップ作成に関する準備作業
- 神経科学トピックス記事査読作業(10件)
- 神経科学トピックス記事HP公開(8件;別添資料参照)

- 委員会メンバーによる SNS 書き込み（神経科学トピックス図および関連 URL 配信）

（今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画）

- 日本神経科学研究リスト・マップ作成のための情報収集・公開
- 神経科学トピックス記事査読作業
- 神経科学トピックス記事 HP 公開
- 過去の追悼記事の整理および追悼コーナーへの集約

（特記事項）

掛川より追悼コーナー開設について周知した。

また、本委員会で扱う、「道標（若手研究者に向けたメッセージを紹介）」の執筆者について、これまでの名誉会員のみならず希望者誰でも執筆可にしたい旨、提案したところ、企画の趣旨を考えると少し慎重に進めるべきとの意見を頂いた。1 案として、執筆された先生が次の執筆者（名誉会員）を紹介するシステム等、具体案を頂いた。本件については、委員会に持ち帰り、継続して討議したい。

#### アウトリーチ委員会報告事項

（前回の理事会以降の活動報告）

- 市民公開講座「脳科学の達人 2021 脳と心の病に切り込む最前線!」をオンライン開催（2021.7.24）
- 参加者：常時 300 名前後（Zoom Webinar + YouTube Live）
- 録画コンテンツとの編集と公開
- 市民公開講座「脳科学の達人 2022」開催のための研究成果公開促進費申請
- BMI 技術の実用化に関する高校生からの質問に対応

（今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画）

- 市民公開講座「脳科学の達人 2022」の準備・開催

#### 産学連携推進委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- キャリアパス大討論会を将来計画委員会との合同でオンライン開催 (2022.2.19)
  - ・ Zoom Webinar 参加者 65 名、YouTube Live 視聴者 (常時約 100 名)
  - ・ 第 2 部として 90 分間のオンライン交流会も Zoom ブレイクアウトルームで開催
- 2022 年産学連携シンポジウム (2022.7.1) の企画を「メタバースと脳科学」に決定
  - ・ シンポジストは、杉本麻樹 (慶大)、宮脇陽一 (電通大)、小林七彩 (医歯大)、藤井直敬 (ハコスコ)

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- キャリアパス大討論会の録画コンテンツを将来計画委員会との協働で編集・公開
- 2022 年産学連携シンポジウム「メタバースと脳科学」を開催

(特記事項)

- キャリアパス大討論会の開催が 2022 年となりましたため、執行予定であった 2021 年予算 ¥350,000 を 2022 年予算に上積みすることを希望致します。←将来計画委員会の予算に吸収
- 産学連携シンポジウム (@NEURO2022): ¥500,000
  - ※4 名のうち学会員は 1 名 (宮脇) のみ。
  - ※研究者 2 名 (宮脇、近添)、非研究者 2 名 (藤井、小林) で、非研究者枠には一泊分旅費支給可能。
- 企業求人 of HP 掲載については審議中。近日中に報告予定。

アドボカシー委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 関連省庁、ファンディングエージェンシー (AMED、JST) 等と意見交換を実施

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 関連学協会との連携
  - ・ 日本脳科学関連学会連合との連携について議論中。

## 利益相反委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 前回開催時より、COI 委員会で検討が必要な案件がでていないので、特段議論は進めていない。

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 審議事項が発生した時に対応を行う。

## 脳科学辞典編集委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 進捗状況

計算論的神経科学分野は新たな用語を約 100 選出。

<https://bsd.neuroinf.jp/w/index.php?title=計算論的神経科学分野執筆者一覧&oldid=46766>

半数ほどは執筆を依頼し、現在、原稿待ち中。そろそろ提出していない執筆者に催促の必要あり。

- 書籍化

加藤先生、柚崎先生のご尽力で東京大学出版会から一部の記事を出版することを計画中。「脳科学小辞典」の抄録を書籍化する。

東京大学出版の岸氏から、執筆者に書籍収載への許可送付。これまでのところ、お断りになった方はいないよう（返事がない方は諾とする）。

重要な単語で抜けている用語があり、中途半端に書かれているものなどもあり、原著者の意思を改めて確認する必要がある。

- 神経科学ニュースでの告知

新しく掲載した用語を掲載。1 回目は 2021 年後半に完成したもの、2 回目以降は 3 ヶ月分ずつ掲載。

## 臨床・関連学会連携委員会報告事項

(本年度の活動予定：他学会との連携シンポジウム等)

- 1) 2022 年日本神経科学大会において神経内科学会、精神神経学会、神経化学学会との連携シンポジウムに関し、以下の企画を実施予定。
  - シンポジウムテーマ：Neuro2022 で基礎学会と臨床学会を結ぶ
  - 司会  
小野賢二郎先生：臨床・関連学会連携委員会委員  
尾崎紀夫：臨床・関連学会連携委員会委員長
  - 演者
    1. 田中謙二先生：日本精神神経学会から
    2. 戸田達史先生：日本神経学会から
    3. 村山繁雄先生：日本神経病理学会から
    4. 伊佐正先生：日本脳科学関連学会連合から
- 2) 日本脳科学関連学会連合を介した連携
  - ・産学連携活動（産学連携諮問委員会の設置）や健康医療戦略に関する意見表出などについて、討議された。
- 3) 日本学術会議を介した連携
  - ・神経倫理(脳ところ分科会・神経科学分科会の合同)や平時および緊急時の臨床、疫学、基礎研究の体制(パンデミックと社会に関する連絡会議)に関する意見表出などについて、討議された。

(本年度の活動予定)

- 本年度も引き続き、臨床・関連学会等における連携企画を検討予定。
- 専門医制度の動向から臨床系若手の神経科学領域への参入増加は厳しい状況が続いている。

#### ダイバーシティ対応委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 第 44 回大会において、ランチョンシンポジウム（上川内・竹内委員企画）を行い、隠岐さや香先生（名古屋大学教授；「研究と研究環境の Gendered innovations—これまでとこれから」）にご

講演頂いた。

- 男女共同参画学協会連絡会第 19 期第 3 回（2021 年 8 月 23 日 zoom 開催）に参加した。
- 第 45 回大会のランチョンシンポジウムの打ち合わせを行った（2021 年 9 月 27 日 zoom 開催）。Neuro2022 では学会委員会ではなく Neuro2022 ダイバーシティ委員会が企画予定であるため、委員長の Uusisaari Yoe 先生（沖縄科学技術大学院大学）、東田千尋先生（富山大学）と銅谷先生（大会長）、沖縄コングレ担当者 と zoom 会議において、過去の年次大会におけるダイバーシティ対応委員会企画一覧を情報共有した。さらに考えられる問題点などを話し合い、“Paths towards diverse academia”として企画する方向性が定められた。
- 男女共同参画学協会連絡会第 20 期第 1 回（2021 年 12 月 13 日 zoom 開催）、定時社員総会に参加した。

（今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画）

- 男女共同参画学協会連絡会に参加予定（年 3 回; 12 月、3 月、8 月）。次回は第 20 期第 2 回運営委員会および令和 4 年度第 1 回臨時社員総会（定款の改定のため）の予定（3 月 29 日 zoom 開催）。

（特記事項）

- 法人化以降、ダイバーシティに関する数値目標等を定款または内規に定めるかについて、委員会内で今後協議を行うよう諮問があった。

## 倫理委員会報告事項

（前回の理事会以降の活動報告）

- 医学系研究統合指針に対応し「ヒト脳機能の非侵襲研究の倫理問題などに関する指針」を改訂（別添資料参照）

（今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画）

- 医学系研究統合指針が侵襲の定義を明確化したことで、現在の「ヒト脳機能の非侵襲研究の倫理問題などに関する指針」のカバーする内容に、PET や一部の脳刺激手法など非侵襲とは言えない手法が含まれる矛盾が生じている。この機会に DBS や ECoG など侵襲的手法を用いた神経科学研究の倫理を含め、「ヒト脳機能の神経科学研究に関する倫理問題等に関する指針」として発展的改

訂を行いたい。

(特記事項)

(質問) 網膜や脊髄への細胞移植治療など再生医療についても対象にするのか？

(回答) 再生医療等の安全性の確保等に関する法律の内容になるが、神経科学に関連するものは含めるようにしたい。

## 倫理委員会審議事項

(審議事項名)

「ヒト脳機能の非侵襲研究の倫理問題などに関する指針」(「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」対応)

(背景・経緯)

2021年に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」が、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」として統合された。現在神経科学学会が公開している「ヒト脳機能の非侵襲研究の倫理問題などに関する指針」は旧指針(「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」)を参照しており、生命科学研究倫理の最新の状況を反映させる必要がある。

(審議を要する項目)

1) 「ヒト脳機能の非侵襲的研究」の倫理問題等に関する指針(医学系指針改訂に伴う改訂版)

(具体的方法(目的・方法・効果・課題など))

「ヒト脳機能の非侵襲研究の倫理問題などに関する指針」を「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に対応させる作業を行なったので審議いただきたい。

(理事会での質疑応答)

特記なし。

(結論)

改訂版の公開を進める。改訂内容の詳細については Slack 上にアップロードしたファイルに対して 3 月末を期限にコメントを求める。

## 動物実験委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

### 【動物実験共通基本指針に関して】

(現状) 日本の全ての動物実験実施機関を網羅する、所管省庁横断的な「動物実験実施に関する共通基本指針」(以下「指針」)を策定することを行政に依頼

(経緯) 現在、下記3つの省が指針を策定している。

文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(以下「文科省指針」)

「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針」

「農林水産省の所管する研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」上、文科省指針を基に2省の内容を反映させ、さらに動物の「愛護及び管理に関する法律」及び「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」を踏まえた内容として、共通基本指針(案)を策定。

令和2年度5月一般社団法人全国医学部長病院長会議 定例社員総会において案文が承認同年9月全国医学部長病院長会議 動物実験検討委員会が文科省ライフサイエンス課に提出令和3年度4月以降環境省の下で、文科、厚労、農水の4省で2回の会議開催

(今後) 行政レベルに委ねている上記(案)の検討について、指針に対する各省としての意見を纏めるためには、それぞれの省庁に所属する機関の実験動物関係者の方々の意見を聞くことになる。そのための情報共有を行っていく必要があると考える。

### 【Neuralink 社が告訴されている一連の動きについて】 別添資料

(今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

- 「霊長類を対象とする実験ガイドライン」のフォロー
- 動連協/国動協/実験動物学会など、他団体との情報交換

(質疑応答)

### 【追加報告】

動物愛護法のマイクロチップ関連の改正が 2022 年改定で「マイクロチップを装着するよう努めなければならない」ことになった。文科省の飼養保管基準の改正が近日中に行われると聞いている。その際には、現場の意見をフィードバックする機会があるはずだが、注視が必要。

- 会長より

霊長類だけでなくげっ歯類をふくめ、すべての動物実験に係る案件なので、引き続き、注視をしていく必要がある。

## ブレインビー委員会報告事項

(前回の理事会以降の活動報告)

- 第 9 回脳科学オリンピックは、下記の様に実施する

(今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画)

- 実施時期：試験実施期間は 4 月 9 日から 4 月 24 日までの 16 日間（うち 6 日が土日）
  - ・ Covid-19 の影響で、前回大会に続いて CBT 方式で行う。各中学生・高校生が期間中の平日の夕方、休日の昼間にそれぞれ予約し受験できる時間に実施する。
- CBT 実施業者 CBT-S 社を選定した (CBT 実施予算としては 80 万円強を想定している。)
- 参加費：前回と同額の一人 1100 円 (税込み) 徴収する。もし次年度以降、従前の対面方式に戻す場合には、参加費も無料にする。
- 申し込み受付：3 月中旬から、CBT-S 社の HP 内で行う。申込時の決済はコンビニ決済のみとする。カードを持たない高校生も利用可能。
- 神経科学学会年大会との連携：前回、大会の表彰式を行っていないので、前回大会の入賞者とともに学会大会 (沖縄) に招待する予定である。ただし、会期中は高校生の学校が休みではないので、実際の招待は高校および本人、保護者と相談の上で検討する。オンライン参加は全員を招待する。

(その他)

- 問題は (54 問) とし、70 問程度からシャフルしながら、1 問 1 分以内 出題形式はマルチプルチョイス、54 問を 60 分で行う。(3 月上旬に初稿入稿済み)
- 結果は、当日中 (帰宅時) に正答率のみをフィードバックし、4 月下旬に予選通過者を発表する。決勝大会 (上位数名) は極力対面で、GW 期間中に全国 2-3 会場同時開催を検討

- 世界大会は7月末に FENS の期間に併せてオンラインで開催される予定。
- 今後の宣伝：ビラは、全国の高校に直接送付した。HP は脳科連、脳の世紀に掲載。さらに SNS を活用していく。
- オンラインでの予選大会を3年間実施できていないので、高校等と連携して脳科学神経科学の普及事業を行っていく。

## 生物科学連合担当委員会報告事項

### (前回の理事会以降の活動報告)

コロナ禍のため、実質的な活動は制限され、2021年12月23日 14時～16時 zoomにて第24回生科連定例会議が行われた。会議には宮田が参加した。

### (主な議題・報告・審議事項)

1. 令和4年度事業計画ならびに予算案については承認された。
2. 関連国際会議について報告がなされた。
3. IBO・JBO (国際生物学オリンピック) については、コロナ禍のためリモート開催になった事の報告。余剰金は今後国際生物学オリンピックの開催や日本事務局で活用する旨、報告され承認。
4. 生物教育・大学入試問題検討委員会については、高校の生物の教科書が新たに改訂され、生物学的用語をむやみに増やすよりは思考力を培う教育を重視する方向に向かっている。オブザーバーの日本医学会(辻先生から)からヒトの病気は高校では保健体育の科目で扱うが、海外では生物学で扱っている、ヒトの病気も生物学の中で学べるよう、生科連からも働きかけていただきたいという意見。
5. 地球生物プロジェクト委員会についてはオンラインで開催されたことの報告
5. DORA への署名については回答した団体24団体の内、23団体が賛同したため、署名することで可決。
6. 日本学術会議については、生命科学の論文数、研究費、大学院生の数は先進国と比べてもこの10年で減っていることのデータの共有。盛んに議論が行われているとのこと。
7. 国立沖縄自然史博物館の設立活動について紹介

### (今後、約6ヶ月の活動目標・計画)

生科連ですすめている研究費・人材育成委員会として研究の多様性を維持するための方策について、

加盟学会へのアンケート調査等に協力し、解析意見書・要望書、関係省庁に提出する活動を進める

以上

## 日本神経科学学会会員構成

2022年1月1日現在

	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア会員
分子・細胞神経科学	1,889	192	150	17	204	5	42
システム神経科学	1,356	156	127	11	173	9	61
臨床・病態神経科学	599	28	40	6	39	1	12
その他の神経科学	253	26	48	1	110	0	0
パネル不明	15	5	1	1	3	0	0
Total	4,112	407	366	36	529	15	115
名誉会員	19						
賛助会員 (1口10万円) ※	7						
<b>全会員数</b>	<b>5,606</b>						

※成茂科学 10口、他6社はそれぞれ1口

(資料A)

# 日本神経科学学会本体会計2021年度（1-12月）決算

(資料B)

科 目	2021年度予算	2021年度決算	備 考
<b>収入</b>			
会員入会金	1,200,000	1,263,000	
正会員年会費	36,000,000	40,583,000	
若手会員年会費	1,080,000	1,231,000	
学生会員年会費	1,140,000	2,298,000	
シニア会員	400,000	530,000	
海外正会員	1,150,000	1,364,000	
海外若手会員	60,000	84,000	
海外学生会員	10,000	23,000	
賛助会員年会費	1,200,000	1,600,000	
預金利息	1,000	886	
広告料	900,000	1,130,000	神経科学ニュース・HPバナー広告 など
雑収入	400,000	673,691	時実基金事務受託費 など
その他	500,000	500,000	応用脳科学コンソーシアム顧問料
<b>収入計</b>	<b>44,041,000</b>	<b>51,280,577</b>	
<b>支出</b>			
<b>事業費</b>			
ニュース制作費	6,000,000	5,775,083	デザイン費・印刷費・郵送料含む
ニュース英文校閲料	200,000	632,500	合算
HP英語ページ等翻訳	200,000		
HPリニューアル費用	300,000	285,120	第三段階（スマートフォン対応）
会員管理システム開発費用	500,000	104,500	スマートコア新機能開発費用
奨励賞賞金	510,000	507,524	賞状製作費含む
国際機関分担金	1,030,000	1,300,700	IBRO 10,000ユーロ
学術活動支援費	150,000	150,000	生物科学連合、脳科学連合、男女共同参画学協会、学術協力財団
国際交流費	3,200,000	760,996	JNS-FENS TA 4,000ユーロ 他
Brain Bee運営費	1,000,000	1,000,000	
市民公開講座開催支援	2,100,000	630,240	
産学連携活動	350,000	0	
ダイバーシティ対応	300,000	0	
他学会連携活動	100,000	0	
将来計画委員会	500,000	0	
<b>管理費</b>			
人件費	26,500,000	22,508,252	NSR関連業務の人件費の一部をNSR会計が別途負担、大会関連業務の人件費の一部を継続的大会が別途負担。通勤交通費、社会保険費雇用主負担分を含む。
IT関連業務委託費	2,000,000	1,140,652	キッツエムと委託業務契約+消費税
会員管理システム利用料	1,200,000	1,169,513	スマートコア年間利用料
顧問料	1,200,000	1,456,298	税理士顧問料、月次会計監査費、会計ソフトリース料
会議費	100,000	51,545	理事会2回他
通信費	250,000	201,804	
旅費・交通費	1,000,000	108,442	理事会・委員会旅費、加盟学協会への参加旅費、事務局員出張旅費
印刷費	500,000	304,755	学会ロゴ入り封筒印刷費
備品・消耗品費	500,000	523,096	
事務室賃借料	1,700,000	1,799,570	年間 1,420,680円を継続的大会が別途負担
事務機器レンタル料	240,000	60,890	年間 240,000円を継続的大会が別途負担
光熱料	200,000	56,118	年間 276,000円を継続的大会が別途負担
保険料	0	22,200	事務室賃貸物件
レンタルサーバー料	800,000	685,824	
入金手数料	2,000,000	2,136,699	年会費集金に伴う手数料
支払い手数料	150,000	151,550	
雑費	100,000	0	事務室賃貸契約更新時保険料等
減価償却費	0	18,620	
<b>予備費</b>			
	500,000	0	
<b>支出計</b>	<b>55,380,000</b>	<b>43,542,491</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>-11,339,000</b>	<b>7,738,086</b>	
<b>前期からの繰越額</b>			
前期からの繰越額	94,943,156	94,943,156	
<b>次期への繰越額</b>			
次期への繰越額	83,604,156	102,681,242	

## 次期への繰越額に含まれる資産と負債

2021年12月31日現在

資産	
銀行預金	113,945,504
未収入金	
応用脳科学コンソーシアム顧問料	500,000
神経科学ニュース広告掲載料	45,000
過払金	
レンタルサーバー利用料	44,000
固定資産	652,380
<b>資産合計</b>	<b>115,186,884</b>
負債	
未払金	
FENS渡航費用補助金	166,622
11月分社会保険料	660,840
月次会計監査費 2021年分	198,000
前受会費	
2022年会費	191,000
預り金	
源泉所得税預り金	325,772
アルトマン基金預り金	10,963,408
<b>負債合計</b>	<b>12,505,642</b>
<b>次期への繰越額</b>	<b>102,681,242</b>

(資料C)

# 日本神経科学学会本体会計2022年度（1-12月）予算

(資料D)

科 目	2022年予算	備 考
<b>収入</b>		
会員入会金	1,200,000	3,000円×400名
正会員年会費	37,000,000	10,000円×3,600名（完納率 85%想定）
若手会員年会費	1,800,000	6,000円×180名（完納率 90%想定）
学生会員年会費	1,500,000	3,000円×380名（完納率 90%想定）
シニア会員	500,000	5,000円×80名（完納率 95%想定）
海外正会員	1,000,000	5,000円×230名（完納率 50%想定）
海外若手会員	90,000	3,000円×20名（完納率 90%想定）
海外学生会員	10,000	1,000円×10名（完納率 90%想定）
賛助会員年会費	1,600,000	8社
預金利息	1,000	
広告料	1,200,000	神経科学ニュース、HPバナー広告など
雑収入	400,000	時実基金事務受託費 など
その他	500,000	応用脳科学コンソーシアム顧問料
<b>収入計</b>	<b>46,801,000</b>	
<b>支出</b>		
<b>事業費</b>		
ニュース制作費	2,000,000	印刷費・郵送料等
ニュース・HP翻訳費用	800,000	
HPリニューアル費用	500,000	第二段階
会員管理システム開発費用	1,300,000	スマートコア初期開発費用
奨励賞賞金	510,000	賞状製作費 4,860円を含む
国際機関分担金	1,300,000	IBRO 10,000ドル
学術活動支援費	150,000	生物科学連合、脳科学連合、男女共同参加学協会加盟金、学術協力財団
国際交流費	2,000,000	JNS-FENS Travel Award 4,000ユーロ、JNS-SfN Exchange Travel Award 2,500ドル×5名=12,500ドル、年次大会指定枠TA 1,400,000円
Brain Bee運営費	1,000,000	
市民公開講座開催支援	1,800,000	
産学連携活動	500,000	
ダイバーシティ対応	0	
他学会連携活動	0	
将来計画委員会	1,000,000	
コンサルティング料	1,000,000	
<b>管理費</b>		
人件費	24,000,000	NSR関連業務の人件費の一部をNSR会計が別途負担、大会関連業務の人件費の一部を継続的大会が別途負担。通勤交通費、社会保険費雇用主負担分を含む。
IT関連業務委託費	1,200,000	委託業務契約+消費税
会員管理システム利用料	1,200,000	スマートコア年間利用料
顧問料	2,500,000	税理士顧問料480,000円+税、月次会計監査費180,000円+税、会計ソフトリース料42,000円+税、社会保険労務士顧問料330,000円
会議費	100,000	
通信費	250,000	
旅費・交通費	1,000,000	理事会・委員会旅費、加盟学協会への参加旅費、事務局員出張旅費
印刷費	50,000	学会ロゴ入り封筒印刷費
備品・消耗品費	800,000	
事務室賃借料	1,700,000	年間1,420,680円を継続的大会が別途負担
事務機器レンタル料	240,000	年間240,000円を継続的大会が別途負担
電話・光熱料	200,000	年間276,000円を継続的大会が別途負担
保険料	0	
レンタルサーバー料	800,000	
入金手数料	2,200,000	年会費集金に伴う手数料
支払い手数料	200,000	
雑費	100,000	
減価償却費	18,620	
<b>予備費</b>		
	500,000	
<b>支出計</b>	<b>50,918,620</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>-4,117,620</b>	
<b>前期からの繰越額</b>		
	102,857,096	
<b>次期への繰越額</b>		
	98,739,476	